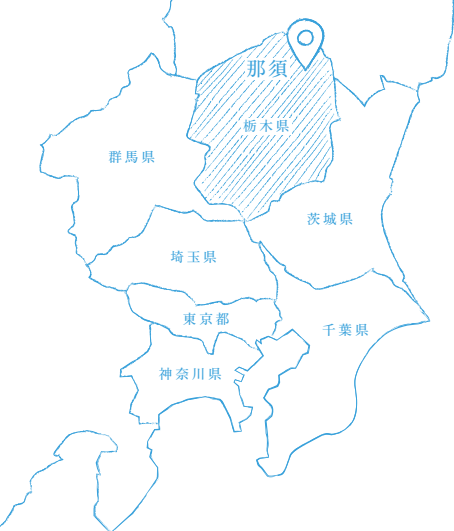




設立50周年を迎えて 新たな工場棟も建設

100周年も見据える「那須工場」



東 京ドーム2.4個分の広さを誇る、東京計器最大の生産拠点である「那須工場」。1974年に操業を開始し、2024年に50周年を迎えました。

設立当時、日本の航空機産業は成長期に入っており、東京計器は将来の防衛産業の拡大を見据え、蒲田以外の地に新たな拠点の設置を検討していました。その中で、航空機に搭載される電子機器の製造に求められる空気清浄度、地盤（振動）、磁気などの厳しい環境基準を満たす地として「栃木県那須町」が選ばれたのです。

最初は「第一東京計器」という子会社としての発足でしたが、1981年には東京計器と合併して那須事業所に。名称を変えながら操業を続け、那須工場として今に至ります。

現在の那須工場



設立直後



一九七四年 前後の 那須工場



社屋建設前

現 在、工場内には500名を超える従業員が働いており、当社の防衛・通信機器事業をはじめ流体機器事業など精密機器の生産、研究開発を受け持ちます。

2016年には実流量校正設備、2023年には宇宙棟、そして2024年12月には防衛管理棟と、新たな設備も増えつづけており、次の100周年も見据え、さらなる発展を目指します。



2024年10月11日に設立50周年記念式典を開催。工場のほぼ全従業員が集結し、これまで存続できたことに感謝。そして、次の未来に向けた決意を固める式典となった。

設立五十周年記念式典

50周年記念プロジェクトとして、那須町と那須塩原市に災害備蓄品として寄贈する〈土嚢寄贈大作戦〉を実施。「50年という節目を迎えるにあたり、地域に感謝の気持ちを込め、全従業員で恩返しをしたい」という思いから、8月から9月にかけて那須工場の従業員1人ひとりが1個ずつの土嚢を作成した。



2 024年12月25日、敷地内に防衛管理棟を竣工しました。防衛製品の需要に応えるとともに、目下の増産体制の構築や将来の新製品の開発・生産を実現するための十分な広さを確保。さらに、防衛事業の管理・調達部署を集約し、スムーズな生産体制を実現します。

防衛管理棟竣工

